

就労介護者の仕事と家庭役割間の葛藤とケアマネジャーによる就労継続支援の判断, 就労介護者の特性との関連

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公益社団法人日本看護科学学会 公開日: 2022-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 深山, 華織 メールアドレス: 所属: 大阪市立大学
URL	https://ocu-omu.repo.nii.ac.jp/records/2015824

氏名	深山 華織
学位の種類	博士（看護学）
学位授与年月日	令和4年9月23日
学位論文名	就労介護者の仕事と家庭役割間の葛藤とケアマネジャーによる 就労継続支援の判断，就労介護者の特性との関連 Relations of Working Caregiver Work-family Conflicts to Assessment of Care Manager Support for Continued Employment and to Working Caregiver Characteristics
論文審査委員	主査 教授 玉上 麻美 副査 教授 白井 みどり 副査 教授 塩井 淳

論文内容の要旨

【目的】 就労介護者の仕事と家庭役割間との葛藤とケアマネジャーによる就労継続支援の判断および就労介護者の特性との関連を明らかにする。

【方法】 全国の居宅介護支援事業所を利用する就労介護者とその担当ケアマネジャーに、郵送で無記名自記式調査を実施し、各対象者 696名（有効回答率23.2%）を分析対象とした。就労介護者から、ワーク・ファミリー・コンフリクト（WIF・FIW）等を把握し、ケアマネジャーから、介護者の就労継続のための支援の判断等を把握した。分析方法は、就労介護者のWFCの下位尺度であるWIFとFIWの各平均値をカットオフ値として高群/低群に分類し、ケアマネジャーによる4種類の支援の必要性は2群に分類した。就労介護者のWFCとケアマネジャーによる就労継続の判断、就労介護者の特性との関連性を検討するため、ロジスティック回帰分析にて検証した

【結果】 就労介護者の平均年齢は57.2（SD8.8）歳で女性が79.3%、就労介護者のWFC 得点では、WIF 得点は2.8（SD0.7）点、FIW得点は2.5（SD0.7）点であった。ロジスティック回帰分析の結果、ケアマネジャーが心理的支援の必要性が高いと判断している就労介護者はWIFが高かった（OR = 2.44, 95%CI = 1.33~4.48）。就労介護者の特性として、主観的健康観が悪い者（OR = 3.54, 95%CI = 2.00~6.28）や暮らし向きが苦しい者（OR = 2.21, 95%CI = 1.36~3.57）などは WIFが高かった。

【結論】 ケアマネジャーが心理的支援の必要性があると判断する就労介護者は、就労により家庭役割を遂行する上で葛藤を抱えていることが明らかになった。

論文審査結果の要旨

本研究は、日本看護科学会誌(発行：日本看護科学学会、公開日：2022年7月1日)に、原著論文として掲載された。

本研究は、就労介護者の仕事と家庭役割間との葛藤とケアマネジャーによる就労継続支援の判断および就労介護者の特性との関連を明らかにすることを目的とした横断研究である。先行研究では、就労介護者のうち女性のFIWと離職の関連、ケアマネジャーの介護者への就労支援についての研究はあるものの、就労介護者とその担当ケアマネジャーをマッチングさせ、関連を検討した研究は見当たらない。これらをマッチングさせた本研究は、高い新規性・独創性があり、学術的貢献が認められる。本研究の結果は、就労介護者の主観的健康観を把握することで、WFCへの介入の必要性について判断する指標になる可能性が示唆され、看護実践への応用が期待される。

博士論文報告会では、本研究全体を明確に報告、質疑応答も適切であった。博士論文審査では、縦断的研究による就労介護者の状況に応じたケアマネジャーの判断や支援への影響を検証する必要があることなど、本研究の限界と課題が明確に述べられた。就労介助者の就労継続支援の判断と支援への看護実践の意義を明確に述べられており、有用性があり、在宅看護学、産業保健分野の発展に貢献する内容であると判断した。

以上より、本論文は博士(看護学)の学位を授与するに値するものと認められる。